

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 木 4	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	ドイツ語 German		
対象年次 2 年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 2E8~10	科目分類 外国語科目(ドイツ語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 目 正勝 / Eメールアドレス: m79sakka@aol.com / 研究室: (非常勤講師室)			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい: 文法の基礎をさらに確実なものにし、応用段階へと進む。様々な内容のドイツ語文章に触れ、読解力や語彙を身につける。ドイツの文化や歴史、現代ドイツの諸事情についての理解を深める。ドイツ語文の朗読を通じての発音練習。</p> <p>授業方法: 物語文やエッセイのドイツ語を読む。 年間を通じて 2 冊のテキストを使う。前期は、中級ドイツ語への橋渡しのもの、文法の再確認と平易なドイツ語文章の読解を内容としている。教室では毎回 4~5 人の人に和訳をしてもらい、前もって割り当ておくので、当たった人はよく調べてこなければならない。 後期は、現代ドイツの小説家クルト・クーゼンベルクの短編集『クーゼンベルクの奇談集』を読む。比較的平易なドイツ語文なので、どんどん読み進むことができる。多読の楽しさを味わうことができるだろう。</p> <p>授業到達目標: 辞書を引きなからでも、現代ドイツ語の文章で特に難解なものでなければ概ね読むことができるまでに力をつけること。</p>			
<p>授業内容(概要)</p> <p>『クーゼンベルクの奇談集』を読んでゆく。大体 1 回の授業で 2 ページ進む。</p> <p>第 1 回、第 2 回、第 3 回.....第 1 話、La Bottella(1~7 ページ)、文の構造把握、和訳など。</p> <p>第 4 回、第 5 回、第 6 回.....第 2 話、Der Riese(8~18 ページ)、文の構造把握、和訳など。</p> <p>第 7 回、第 8 回、第 9 回.....同上、適宜文法の練習問題。</p> <p>第 10 回、第 11 回、第 12 回.....第 3 話、Herr Tietze(19~28 ページ)、文の構造把握、和訳など。</p> <p>第 13 回、第 14 回.....同上、適宜文法の練習問題。</p> <p>第 15 回 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書: (後期) 『クーゼンベルクの奇談集』 杉山産七 他著 三修社		
成績評価の方法・基準等	定期試験(約 90%)、および平素の学習成績、授業への積極的な参加状況(約 10%)を考慮して総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			